

2022 年度後期 名桜生のための「教員養成講座 入門編」

教員採用試験の勉強を始める学生のための「教員養成講座 入門編」を11月4日（金）に開講しました。県内受験希望者8人、県外希望者15人、計24人が参加しました。参加者の受験教科は英語(6)、保健体育(8)、養護教諭(8)、情報(2)でした。最初に教員になりたいと思った動機について聞いてみました。

半数以上（13人）が、「中学校や高校の頃の先生に憧れて、中学校の時に先生に褒められて、中学校の時に先生にお世話になったから、養護教諭が印象的で憧れていたから」等、これまでに会った先生の影響が大きいことが要因となっていることが分かりました。また、「学習支援ボランティアを体験して教員になりたいと思うようになった。自分が子どもの時にはいなかった、心から“頼っていいんだ”と思える大人（教員）になりたかったから」という記述もありました。

次の3つの視点からメッセージを伝え、教員採用試験の出題傾向や学習方法について説明を行いました。

- ①「出会い人は人を換え、感動は人を動かす！」と言われるように、子どもたちにとって教師との出会いは、将来の進路をも大きく左右します。子ども一人一人に感動を届けられるような教師になって欲しい。これから皆さんが会おうであろう子どもたちにとって、先生に出会えてよかったと感動を与えられる教師を目指して頑張りましょう。
- ②目標を明確にし、教師の使命とは何か、今やるべきことは何かを考えて、ぶれることなく合格まで教採の勉強を継続しましょう。
- ③教員採用試験勉強は大変だと思ってやるのではなく、自ら「主体的な学び」を体験すること、「学ぶことが楽しい」を実感できること、「学び続ける力」を身に付けること、この体験を子どもたちに伝えることができる教師を目指すことが重要です。

<講座に参加して学んだこと、決意、感想など>

- ・教師になりたいと思ったきっかけ、志望理由を声に出すことで、目標が明確になり、より教師になりたいという意欲がわいた。採用試験は孤独な戦いではないと思うことができた。
- 仲間でありライバルである友人たちと、残り2年、精いっぱい頑張ろうと思うことができた。
- ・教育実習期間に出会った先生方との関りを通して教員という職業に強い憧れとやりがいを感じたため、教員を目指してみたいと感じました。教師になって大変なことを乗り越えていけるか心配や不安が多かったのですが、今日の講座を通して、他の学生や先生の言葉を聞き、強い気持ちや今の情勢だからこそ、教師が必要だと知り、自分も頑張りたいと思いました。
- ・思っているよりも教採は大変そうだったと同時に、やった分だけ頑張った分だけ返ってきそうだったので、モチベーションが上がりました。ありがとうございます。私立の場合はどう対策をすればよいか気になりました。
- ・今日の講座に参加して、教採の勉強の仕方や、モチベーションを上げることができた。先生がおっしゃっていたように、1人で頑張るのではなく、一緒に勉強してくれる友達と一緒に合格するために頑張りたいと思いました。ありがとうございます。
- ・今回の講座を受けて、教員を目指すにはゆるぎない覚悟が必要だと感じた。強い意志と覚悟を持とうと思った。
- ・なぜ教育に携わり教員になろうと思ったのか、改めて自分なりに考えることができたし、友人の知らなかった思いを聞いて、一緒にライバルとしてこれから頑張りたいと思った。これから沢山学ぶことも増えるだろうし、大変になると思うが頑張りたい。
- ・今後求められる教員像とはどのようなものなのか、私たちは今からどのようなことを学んでいけばよいか分かった。

受講生のメモ書きから

教師の使命とは

- 生徒に寄り添う、思いやる、守る、育てる、導く
- 生徒へ善悪を伝える（教える）
- 生徒の人間性を育てる
- 子供の心身の成長を手助けして貢献する
- 子供の将来を支える
- 学びを与え考えさせる
- 子供が望む未来へ導く



「教員養成講座講座 入門編」の様子(11/4)